

当院におけるバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）検出のご報告（第1報）

令和3年12月27日
和歌山県立医科大学附属病院
病院長 中尾直之

昨年よりバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）*が和歌山市内を中心に多数報告されています。当院でも昨年から一部の患者さんで確認されており、当該部署でスクリーニング検査、感染対策の徹底、対策会議などを行ってまいりました。しかし、今年の7月以降も新規発症者が少数あり、それに伴う積極的調査によって、45名のVRE陽性患者さんを確認しました。現時点で殆どが症状のない保菌者であり、この菌によって重篤な状態になられた方はなく、多くは退院され、12月24日時点で保菌者13名のみが入院中ですが、この方々は他の疾患の治療目的で入院されております。

一方で、大阪泉南地域や和歌山市内全体でVREが多発している状況、及び、市保健所や国立感染症研究所耐性菌研究センターのご助言を受け、全入院患者さんを対象としたスクリーニング検査を直ちに開始しており、全病棟の衛生環境についても徹底的に見直し、感染予防対策に万全を期したいと考えております。

皆様には何かとご迷惑をおかけいたしますが、感染拡大を防止するため、何卒ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今後、新たな結果や情報が入りましたら適宜ご報告申し上げます。

*VRE：ヒトの腸内にいる一般的な細菌（腸球菌）がバンコマイシンという抗菌薬に効きにくくなる、または効かなくなる（耐性化）菌のことをVREと呼びます。それ自体の病原性は非常に弱いので、健康なヒトが感染しても病気を起こすことはありませんが、重症がんや免疫不全などの重い病気の患者さんが感染すると病気を起こすことがあります。無症状であることが多いので普通の検査では見つかりにくい性質があります。